

伊方発電所周辺地域を対象とした訪問対話活動の実施結果について

今年度の訪問対話活動は、4年ぶりとなる対面形式により実施しました。

活動では、当社社員が各世帯を訪問し、

- ・伊方発電所における安全文化醸成や技術力の維持・向上への取り組み
- ・使用済燃料乾式貯蔵施設設置工事、伊方発電所1，2号機の廃止措置作業および使用済樹脂貯蔵タンク増設計画の状況

などについてご説明するとともに、皆さまから原子力に関するご意見・ご質問をお伺いしました。

概要は、以下のとおりです。

1. 実施状況

- ・期 間 令和5年9月28日（木）～ 11月21日（火）
[一時休止の期間を除き、実働35日間]
- ・訪問戸数 25,702戸（在宅率：約51%）
[伊方町・八幡浜市の全域および大洲市・西予市の一部（伊方発電所から20km圏内）]

（内訳）

地 域	期 間	戸 数
伊 方 町	9/28～11/16	4,072 戸
八幡浜市	9/28～11/21	14,928 戸
大 洲 市	10/6～11/16	2,353 戸
西 予 市	9/28～11/20	4,349 戸
合 計		25,702 戸

- ・当社からの訪問者数 482人、延べ1,300人・日 [従業員が2人1組で訪問]

2. 実施結果

- 当社訪問者の印象に基づく原子力発電へのお客さまの評価は、「一定の理解」が7割以上を占める結果となりました。一方、直近で対面形式による活動を実施した令和元年度の結果と比較すると、地域によって一部で違いはあるものの、「一定の理解」が減少し、「どちらでもない」が増加しました。

[図1]

- お客さまからのご意見を項目別に分類すると、原子力発電の安全性にご理解を示すものが最も多く、次いで原子力発電の必要性にご理解を示すものが続き、これらが全体の8割近くを占めました。この背景には、安全文化の醸成や技術力の維持・向上を図りながら、伊方3号機が安定的に運転を継続していることに加え、化石燃料価格が国際情勢等に大きく左右される中、原子力発電を再評価する動きがあるものと推測しています。

一方で、安全性への不安や、万一の際の避難への不安を示すものも一定数ありました。

このほか、当社の事業運営全般に関するご意見として、昨今の状況を踏まえ、電気料金の引き下げを求める声も目立ちました。

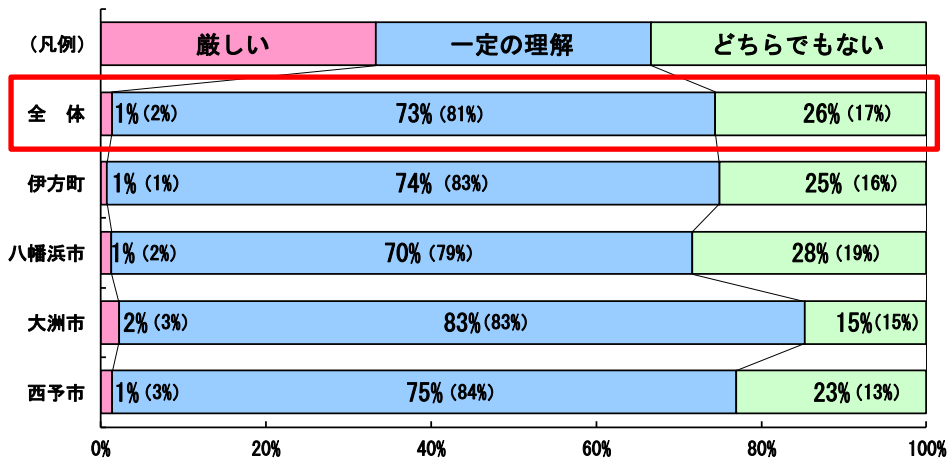
[図2]

- 当社としては、今回の活動でいただいたご意見を真摯に受け止めながら、引き続き伊方発電所の更なる安全性向上を図ることはもとより、今後も発電所に関する情報を迅速かつ丁寧に分かりやすく発信していくことで、皆さまからご信頼いただける伊方発電所を目指してまいります。

このほか、伊方発電所で働く従業員が自らの言葉で自身の役割と安全への思いを語る動画「一人ひとりが、安全への思いを胸に」を新たに制作し、9月28日から11月21日までの間、地域のケーブルテレビ3局（八西CATV、ケーブルネットワーク西瀬戸、西予CATV）で放送しました。動画は、当社ホームページでも公開しています。

以 上

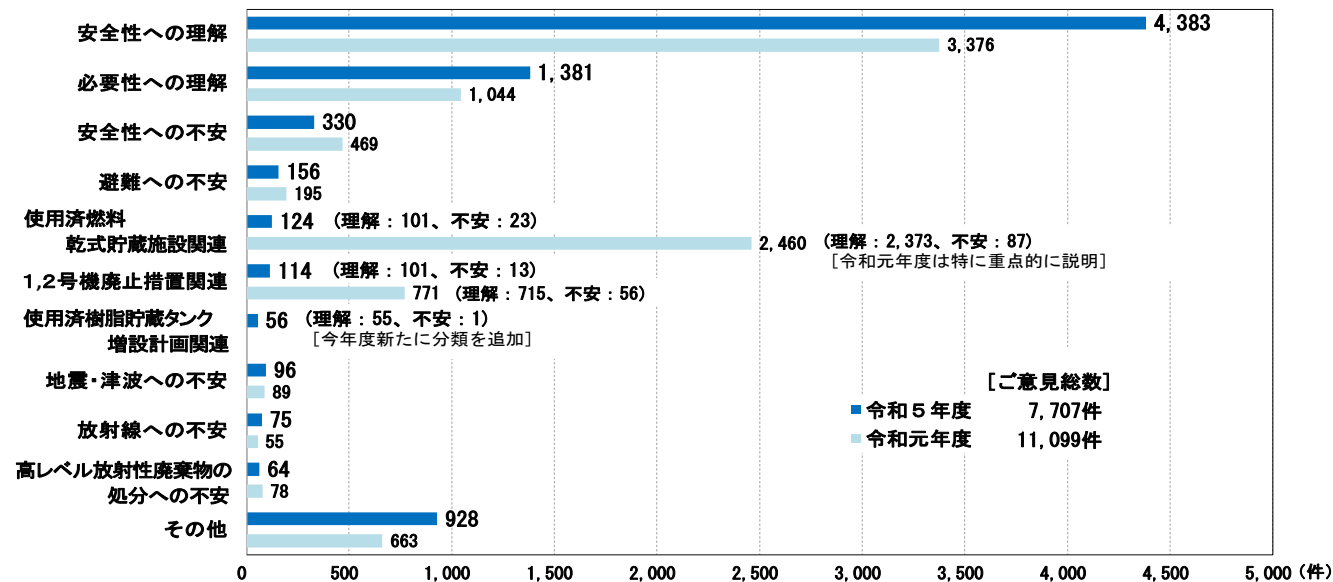
[図 1] 原子力発電に対するお客さまの評価 [当社訪問者の印象]



[注]

- ・ () 内は令和元年度の値
- ・ 四捨五入の関係で合計が 100 とならない場合がある

[図 2] お客さまからの主なご意見



(参考) お客さまからのご意見の例 [抜粋]

[厳しいご意見]

- ・ 原子力には反対である。事故が起きるとこの地区に住めなくなる。
- ・ 安全に絶対はない。有事の際はどのように避難すればいいのかわからない不安を感じている。
- ・ 原子力にかかる費用があるのなら太陽光や風力の開発に使うべき。
- ・ 廃棄物の最終処分場が決まっていない状況での稼働には反対。 など

[一定のご理解]

- ・ 電気は必要であり、安全最優先で伊方発電所の運転をお願いしたい。
- ・ あるものは有効に使い、電気料金も下がるよう努力してほしい。
- ・ 有事の際の避難が気になっていたが、説明を聞いてよくわかった。
- ・ この活動も地域の安心につながっている。引き続き小さなことでも情報公開を。 など

地域の皆さまへ

皆さまには、日頃より四国電力の事業運営にご理解を賜り、誠にありがとうございます。
伊方発電所3号機は、本年6月に16回目となる定期検査を終え、現在、安全・安定運転を継続しております。

当社では、引き続き、伊方発電所のさらなる安全性向上を図ることはもとより、今後も発電所に関する情報を迅速かつ丁寧に分かりやすく発信していくことで、皆さまからご信頼いただける伊方発電所を目指してまいります。

四国電力株式会社 取締役社長
社長執行役員

長井 啓介



四国電力では、伊方発電所に対する皆さまのご不安や疑問の声に少しでもお応えできるよう、社員が各ご家庭を訪問し、直接ご意見・ご質問をお伺いする活動を継続的に行っております。

本日は、伊方発電所の現状などについてご説明するリーフレットをお届けにまいりました。

リーフレットの内容に関するものをはじめ、伊方発電所について日頃からお気づきの点やご質問などがございましたら、

- ・同封の郵便ハガキ
- ・電子メール（専用メールアドレス：chiiki-voice@yonden.co.jp）
- ・お電話

（専用フリーダイヤル：0120-459-796
11月24日（金）まで※の9時～17時

※10月21日、22日、28日、29日、11月23日は除く



でお寄せいただけると幸いです。



四国電力株式会社

皆さまからご信頼いただける伊方発電所を目指して



多田所長

発電所の安全性をさらに高めながら、安定的に電気をお届けしていくという原子力事業者としての責任と使命をしっかりと果たしていくことで、皆さまにご信頼いただける、より良い伊方発電所を目指しています。

発電所で働く一人ひとりが安全に対する高い意識を持ち、安全を最優先にする文化と、これまで培ってきた技術力を確実に引き継いでいけるよう不断の努力を積み重ねています。

安全文化を育んでいくために

発電所で働く一人ひとりが基本ルールを遵守し、一つひとつの作業を慎重かつ確実に進めていくため、安全を最優先にする文化を一層確かなものとする取り組みを進めています。



軽微な気づきや改善提案を幅広く収集し、一元的に管理

作業計画段階の
チェック結果

作業要領書の
気づき事項

作業後の
振り返りでの
改善提案

意見交換での
要望事項

他部門や
外部機関の声

新技術に関する
メーカーからの
各種情報

など

改善策を検討・実践

▶ 当社の経営層・幹部と発電所員との双方向コミュニケーションの充実を図り、安全意識の共有に向けた意見交換の場を定期的に設けています。

▶ 日々の業務の中での軽微な気づきや改善提案を幅広く収集するしくみを構築し、改善活動を推進することで、トラブルの未然防止に努めています。

技術力を維持し、高めていくために

3号機一基の体制となったことによる現場作業経験の減少やベテラン社員が定年退職を迎える中でも、現場の技術力を維持し、一層高めていくための取り組みを進めています。



▶ 日々のパトロールや点検作業において、ベテラン社員が若手社員と一緒に行動し、知見やノウハウを伝えるなど、技術継承に努めています。



▶ 原子力保安研修所(松山市)で実際の発電所と同じ制御盤や配管などを用いながら、さまざまな事態を想定した訓練を継続的に行うなど、発電所員の技術力の維持・向上に努めています。

安全に対する所員の思い



▶伊方発電所・運転担当

発電所の頭脳とも呼ばれる中央制御室で運転員として働いています。

現場のパトロールでは、設備が問題なく動いているか、異常につながる兆候はないか、少しの変化も見逃すことのないよう感覚を研ぎ澄ませて、日々、発電所の運転にあたっています。

発電所の設備をベストな状態で運用できるよう、日常の点検のほか、必要な工事の計画を立てています。

発電を止めて行う定期検査では、さまざまな機器を詳細に点検・検査します。法令で定められた基準を満たしていることはもちろん、さらに安全性を高められないか、という視点で業務に取り組んでいます。

伊方発電所・保守担当



▶原子力保安研修所(松山市)・保守訓練担当

長年、伊方発電所で運転や保守の業務に携わってきましたが、今は原子力保安研修所で指導員として働いています。

原子力発電所にはさまざまな機器があり、これらに異常がないか、人の目でしっかり確認することが大切です。現場経験を積み重ねてきた技術者として、これまで培ってきた知見や安全への姿勢を、次の世代に確実に伝えていきたいと考えています。

伊方発電所で働く人たちの姿と想いは、動画でもご紹介しています。



地域のケーブルテレビ局での放送
(八西CATV、ケーブルネットワーク西瀬戸、西予CATV)



四国電力
ホームページ



伊方発電所における工事等の状況について

使用済燃料乾式貯蔵施設

- 伊方発電所で発生した使用済燃料を一時的に貯蔵する「乾式貯蔵施設」の設置工事を2021年11月より開始し、これまで順調に進捗しています。2025年2月の運用開始を目指し、地域の皆さまのご理解を賜りながら、引き続き、安全を最優先に工事を進めてまいります。



建物の基礎部分や壁面を構築する工事を実施中
(2023年7月現在)



使用済燃料は金属製の頑丈な容器（乾式キャスク）に収納

1、2号機の廃止措置

- 全体工程を4段階に区分し、約40年間かけて作業を実施する計画で、現在、第1段階として設備の放射能調査のほか、放射線管理を必要としない区域の設備を解体、撤去しています。
引き続き、安全かつ着実に進めてまいります。



2号機のタービンを取り外して搬出する様子

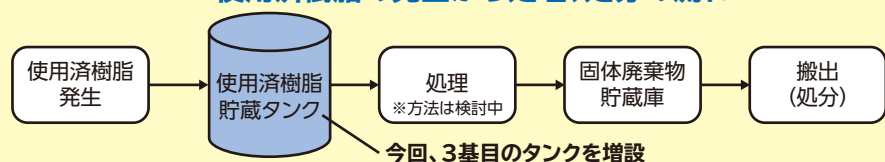
使用済樹脂貯蔵タンクの増設計画

- 3号機の原子炉冷却水の浄化などに使用した樹脂を一時的に貯蔵するためのタンク（使用済樹脂貯蔵タンク）を、あらかじめ確保していた場所に増設する計画です。
- この増設工事について、本年8月8日に愛媛県・伊方町より、安全協定に基づく事前協議に対してご了解をいただきました。今後、2024年度より工事に着手し、2026年度の竣工・運用開始を目指してまいります。
- 使用済樹脂は、最終的には、埋設施設に搬出して処分する方針であり、現在、その処分場の確保や埋設時の受入れ基準などについて、電力会社全体で検討をしています。当社は、これらの検討状況を見極めながら、最適な方法で適切に処理してまいります。



樹脂（イメージ）

使用済樹脂の発生から処理、処分の流れ



【お問い合わせ先】（平日9時～17時）

四国電力株式会社 原子力本部 エネルギー広報グループ TEL:089-946-9730
伊方発電所 広報課 TEL:0894-39-1701